怪物輿論

付、田舎草紙・滑稽臍栗毛

中山尚夫編

〈十返舎一九集 6〉

古典文庫

怪物輿論

付、田舎草紙・滑稽臍栗毛

中山尚夫編

〈十返舎一九集 6〉

古典文庫

古典文庫四九七冊

昭和六十三年三月二十日発行　非売品

怪物興論
<一九集 6>

編者　中山尚夫

発行者　吉田幸一

印刷者　共立印刷株式会社

発行所　114 東京都北区西ケ原三ノ三四ノ一二　古典文庫
電話（九一〇）二七一七
振替口座東京九―一四五九七番

© KOTEN BUNKO, 1988. Printed in Japan

目次

凡例……三
怪物輿論　巻之一……五
怪物輿論　巻之二……二七
怪物輿論　巻之三……四三
怪物輿論　巻之四……六一
怪物輿論　巻之五……七九
田舎草紙　巻之一……九七
田舎草紙　巻之二……一二七

田舍草紙　卷之三……一三七
田舍草紙　卷之四……一六一
田舍草紙　卷之五……一八一
滑稽臍栗毛　上……二〇三
滑稽臍栗毛　下……二五一
解　説……三〇五

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertor

凡　例

一、本書は十返舎一九の作品中から、『怪物輿論』（底本、東洋大学図書館蔵）、『田舎草紙』（底本、東洋大学図書館蔵）、『滑稽膵栗毛』（底本、蓬左文庫蔵）を全文翻刻した。

一、翻刻にあたっては、できる限り原文に忠実であることを心がけたが、

(イ)　宛字・誤字

(ロ)　仮名遣いの誤・振り仮名の誤（例、難（たん））・送り仮名の不足（例、脳され）または余り・清濁

(ハ)　振り仮名・踊り字・割り書き・句読点

等はすべて底本のままとした。

一、漢字は原則として底本のままとしたが、現行活字にない異体文字は、正字に改めたものもある。（例、㒰→並）

一、『滑稽膵栗毛』の文中の会話における話者の名は、原本では 権七 子たね

とあるが、本書では『権七』『子たね』の記号に改めた。

一、底本の丁移りは、その丁の表および裏の末尾を示すことにし、数字表記は、底本の丁附けにしたがった。

一、原文には一篇中、文の途中での改行はほとんどないが、組版の都合上、適宜丁移り箇所で改行した所がある。

一、挿絵・広告文も総て底本のまま収めた。

一、終りに、本書を成すにあたり、御蔵本の翻刻掲載を御許可下された東洋大学図書館、蓬左文庫に対し、深謝申上げる。

昭和六十二年八月

中山尚夫

怪物輿論

一

怪物興論叙

無情にして。有情に化するものは。腐艸化して螢となるの類ひ。離形にして有形をなすものハ。折枝を地にさすに。自根つくが如し。況や人の寃気（序一オ）存して。異形を露し霊をなす事。各物に着するの情逼する故也。蓋山谷幽陰の猿精狐怪。古家荒房の怨鬼愁寃。倶に奇とすべく。亦奇とすべからざるもの也。（序一ウ）依て今新に。其怪を索るにあらず。需ずして諸書に霊異の證状あるを。盡く拾鳩し。命て怪物興論となすものならし（序二オ）

維時享和三亥春三月

東武　橘街逸民

十返斉一九誌

敬貞之印

（序二ウ）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

怪物輿論綱目

巻之壱

斉念成二魔鬼一全二私怨話

巻之二

妖火護二悋持方金一話

巻之三

狗霊変レ形咱二両子一話

巻之四

轆轤首悕念却報レ福話

巻之五

（序三オ）

岩倉少女逼二淫慾一成レ鬼話（序三ウ）

目録終

怪物輿論巻之一

十返舎一九編

斉念成魔鬼全私怨話

駿河の国菴原の片邊に。霊岩寺といへる化城あり。往時今川家尊信帰伏の霊像を安置して。尤安富尊栄の地なりけるが。今ハはや纔に舊蹤の名のミ残り。唯一草扉の中にして。住持斉念ミづから旦家に鉄鉢(一ノ一オ)を捧て修行し。旦にハ星を戴き。澗水を汲て米をかしき。夕にハ月を負ふて薪こり柴を刈て持帰り。漸く露命を完くし。年頃検約を守り。質素堅硬にして。その塵を積埃を集めて。終に過當の金銭を悋持せり。然るに此斉念性質淫色の意深く。同邑の浪士。飯尾与

惣といへるものゝ養女お種に。恍惚の心を生じ。執心（一ノ一ウ）の餘り。累年膏血を絞りて。貯溜たる金銭を惜まず与惣に與へて。養女お種を庵中に引入れ。人しれず房間に深く隠置て。日夜この愛情に縛せられ。忽持戒の要を忘れ。信念を違格し。勤行を懈怠して。遂に破戒無慚の佛罰を犯すにいたる。去ほどにお種ハはからずも。父与惣が許若の金銀を。恵投に遭たる（一ノ二オ）事なれバ。今更奈何ともなしがたく。仮に身を任せ。斎念に契るといへ共。敢而亀霍の思ひにあらず。其上昼夜斎念が遨淫に脳され。堪亘くやありけん。或夜暇隙あるを幸ひ。草庵を忍び出。宿所に遁れ帰りけれバ。斎念女の見へざるに懈轉して。徑に与惣が方に至り。其在所を索るに。早くも匿して詳に言ざれバ。頑心遅鈍の（一ノ二ウ）斎念終に一心癲狂し

て。近郷に狂ひ出。曽て穀食を断。次第に渾身痩弱し。気力労れて今ハたゞ庵中に臥轉び。既に命も絶なんとするにいたつて。稍頭をもたげ傍人に向つていふ。我不期にして色慾の為に仏恩を廃し奉り。悪縁に導れて生涯を愆事従前の過を悔るとも詮なし。然といへ共奈何なる宿世の業因にや。今の際に至る（一ノ三オ）

挿絵第一図（一ノ三ウ・一ノ四オ）　一九画

まで是を断理する事なし。望くハ終臨の思ひ出に。今一度養女お種に面會なさバ。却て迷惑の念ひもはれん。さなき時ハ愈遺感の情に逼て。死後成佛に帰せん支固かるべし。あはれ与惣に是を示し。其事をなさしめたまへ。さあらバ我千載の命一遇にかへて得道すべしと。双眼に泪を流し。戚々と語出るにぞ。農夫何某枕上に跪座（一ノ四ウ）

第一図（一ノ三ウ）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertor